

文化祭を終えて

文化祭を終えてまず思ったことは、1年生のときからこの日のためにやってきたことが終わってしまうのがさみしいということです。1年生のときから、つらいことも多かったけれど、そんなことがある度に、いつかこの頑張りが報われるときが来る！と信じてきました。何度も壁にぶつかったし、何度も辞めたいと思ったけれど、ここまで頑張ってきてこられて本当によかったと今は思っています。

3年生になると、製作はもちろんのこと、ウォーキングの練習やショーの構成、タイトル、照明などの具体的なことも決めていかななくてはならず、ただでさえ製作で忙しい中細かいことも並行して進めるのが本当に大変でした。

夏休みは毎日学校に来て、振袖の製作をしました。午前、午後あわせて6時間机に向かい、ひたすら縫い続けました。何度直しても丈調べが合わなかったり、袖のしるしがずれて柄が合わなかったりしましたが、無事に完成させられてよかったです。

9月に入ると、1日中ショーに関する準備や練習をしていることが多くなり、時間が経つのがあっという間でした。準備は着々と進んでいき、パンフレット、看板、ステージの設営、照明計画等が揃い、いよいよ本番になりました。

1日目は全員で楽しむことを目標に、笑顔で歩くことができました。在校生や先生方に感動を与えられていたらうれしいです。

2日目は、今まで支えてくれた人たちへの感謝を込めて歩きました。授業作品、テーマと笑顔で歩くことができましたが、振袖で出る前、帰ってきたウエディングドレスの子達が涙を浮かべているのを見て既に泣きそうでした。そしていよいよ振袖の番になり、ステージに出てNちゃんと目が合った瞬間、2人で泣いてしまいました。そのあとも涙が止まらず、撮ってもらった写真は全部泣き顔で、とても世に晒せたものではありません。エンディングでは、楽しい雰囲気を出せるようにどうにか笑顔をつくれていたと思いますが、緞帳が下りた瞬間また泣いてしまいました。

今まで頑張ってきたことがようやく認められた感覚がして、充実感でいっぱいです。

見てくれた人からは、「本当によくがんばったね、見ていて泣きそうだったよ」などと言ってもらえました。誰かを感動させることができるショーをつくれた実感がわき、とてもうれしかったです。ショーから数日経っても、その人は「動画を見たり思い出しただけで泣きそう」と言ってくれます。みんなの頑張りが、たくさんの人に感動を与えられるなんて、こんなに光栄なことはこの先生きていてまた経験できるかわかりません。この経験は一生忘れられない大切な思い出です。